

## 第2章 基本の方針

### I 子どもの読書活動に関する課題

子どもは、読書を通じて、読解力や想像力、思考力、表現力等を養うとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりすることができるようになる。また、文学作品に加え、自然科学・社会科学関係の書籍や新聞、図鑑等の資料を読み深めることを通じて、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得し、更なる探究心や真理を求める態度が培われる。

近年、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化し、予測が困難な時代になっている。子どもたちには様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや様々な情報を見極め新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築できるようにすることが求められている。

一方、情報通信技術（ICT）を利用する時間は増加傾向にある。あらゆる分野の多様な情報に触れることがますます容易になる一方で、視覚的な情報と言葉の結び付きが希薄になり、知覚した情報の意味を吟味したり、文章の構造や内容を的確に捉えたりしながら読み解くことが少なくなっているのではないかとの指摘もある。

このような状況にあって、現在、学習指導要領等の改訂や高大接続改革が行われているところである。その中で読書活動は、精査した情報を基に自分の考えを形成し表現するなどの「新しい時代に必要となる資質・能力」を育むことに資するという点からも、その重要性が高まっていると考えられる。

### II 子どもの読書活動に関する課題の分析と取組の方向性

子どもの読書活動の重要性が高まっていることや、学校段階により子どもの読書活動の状況に差があることに留意しながら、本計画期間においては、乳幼児期から、子どもの実態に応じて、子どもが読書に親しむ活動を推進していく必要がある。

特に高校生の不読率が高いことを受けて行った文部科学省の調査研究によると、読書を行っていない高校生は、中学生までに読書習慣が形成されていない者と高校生になって読書の関心度合いが低くなり、本から遠ざかっている者に大別されると考えられる。

このような現状を改善するために、前者には発達段階に応じて読書し読書を好きになる、つまり読書習慣の形成を一層効果的に図る必要があり、後者には読書の関心度合いが上がるような取組を推進する必要がある。

前者については、子どもが発達段階に応じて読書習慣を身に付けることができるよう乳幼児期からの読書活動が重要であることを踏まえつつ、発達段階ごとの特徴を考慮した効果的な取組を実施することが重要である。

後者については勉強する時間やメディアを利用する時間が高校生の放課後の時間の多くを占めている実態があることに鑑みると、高校生の時期の子どもが多忙の中でも読書に関心を持つようなきっかけを作り出す必要がある。その方法としては、高校生の時期の子どもは、友人等同世

代の者から受ける影響が大きい傾向があることから、友人等からの働き掛けを伴う子ども同士で本を紹介するような取組の充実が有効であると考えられる。

このように子どもの読書への関心を高めるために、国、都道府県、市町村は、子どもの実態やそれを取り巻く状況の変化を踏まえ、取組の充実・促進を図ることが望まれる。

### 第3章 子どもの読書活動の推進体制等

#### I 市町村の役割

子どもの読書活動の推進に当たっては、子どもや保護者に最も近い立場にある市町村の役割が重要である。

市町村は、子どもの読書活動を一層推進するため、教育委員会のみならず福祉部局等が連携することに加え、学校、図書館、民間団体、民間企業といった関係者の連携・協力によって、横断的な取組が行われるような体制を整備するよう努める。

#### II 都道府県の役割

都道府県は、市町村と同様に、子どもの読書活動を一層推進するため、教育委員会のみならず福祉部局等が連携することに加え、学校図書館、民間団体、民間企業といった関係者の連携・協力によって横断的な取組が行われるような体制を整備するよう努める。

都道府県は、市町村に対し、図書の長期貸出し等都道府県立図書館を活用した支援を行うとともに、他の市町村の施策の紹介や域内の市町村や関係者が連携して読書活動を推進するための助言等を行うよう努める。

#### III 国の役割

国は、本計画に基づく施策を推進するため本計画に基づく施策を推進するため、関係府省庁間相互の、関係府省庁間相互の密接な連携を図るとともに、都道府県及び市町村相互の連携の更なる強化を図る。

国は、国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるために、都道府県、市町村、民間団体等と連携し、「子ども読書の日」等の全国的な普及啓発の推進や、優れた取組の奨励を図る。

国は、都道府県が市町村への支援等子どもの読書活動を推進するに当たって必要な支援を行う。具体的には、子どもや子どもの読書活動に関する現状のデータ、優良事例（読書に関わる主体の連携による取組、子ども同士の取組、教員研修等）等の情報を収集・分析・提言するとともに、必要な助言を行う。

### 第4章 子どもの読書活動の推進方策

#### I 発達段階に応じた取組

読書を行っていない高校生の中には、中学校までに読書習慣が形成されていない傾向も見られることから、生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成するためには、乳幼児期から発達段階に応じた読書活動が行われることが重要である。

このためには、読書に関する発達段階ごとの特徴として例えば以下のような傾向があるとの指摘を踏まえつつ、乳幼児、児童、生徒の一人一人の発達や読書経験に留意し、家庭、地域、学校において取組が進められることが重要である。また、学校種間の接続期において生活の変化等により子どもが読書から遠ざかる傾向にあることに留意し、学校種間の連携による切れ目のない取組が行われることが重要である。

① 幼稚園、保育所、保育所等の時期（おおむね6歳頃まで）

乳幼児期には、周りの大人から言葉を掛けてもらったり乳幼児なりの言葉を聞いてもらったりしながら言葉を次第に獲得するとともに、絵本や物語を読んでもらうこと等を通じて絵本や物語に興味を示すようになる。さらに様々な体験を通じてイメージや言葉を豊かにしながら、絵本や物語の世界を楽しむようになる。

② 小学生の時期（おおむね6歳から12歳まで）

低学年では本の読み聞かせを聞くだけでなく、一人で本を読もうとするようになり、言葉の量が増え、文字で表された場面や情景をイメージするようになる。

中学年になると、最後まで本を読み通すことができる子どもと、そうでない子どもの違いが現れ始める。読み通すことができる子どもは、自分の考え方と比較して読むことができるようになるとともに、読む速度が上がり多くの本を読むようになる。

高学年では、本の選択ができ始め、その良さを味わうことができるようになり、好みの本の傾向が現れるとともに読書の幅が広がり始める一方で、この段階で発達がとどまったり読書の幅が広がらなくなったりする者が出てくる場合がある。

③ 中学生の時期（おおむね12歳から15歳まで）

多読の傾向は減少し、共感したり感動したりできる本を選んで読むようになる。

自己の将来について考え始めるようになり読書を将来に役立てようとするようになる。

④ 高校生の時期（おおむね15歳から18歳まで）

読書の目的、資料の種類に応じて、適切に読むことができる水準に達し、知的興味に応じ、一層幅広く、多様な読書ができるようになる。

## II 家庭における取組

### (1) 家庭の役割

### (2) 家庭における読書を支援する取組

## III 地域における取組

### 1 図書館

#### (1) 図書館の役割

#### (2) 図書館における読書を支援する取組

##### ① 図書館等の整備

##### ② 移動図書館の活用

##### ③ 情報化の推進

##### ④ 子どもの利用のためのスペース等の設置

##### ⑤ 障害のある子どものための諸条件の整備・充実

- ⑥運営状況に関する評価等の実施
- ⑦図書館資料の整備・提ども
- ⑧子どもや保護者を対象とした取組の企画、実施
- ⑨読書活動に関する情報提ども
- (3) 連携・協力
  - ①学校図書館等との連携・協力
  - ②ボランティア活動の促進
- (4) 司書及び司書補の専門的職員の配置・研修
  - ①司書及び司書補の適切な配置
  - ②司書及び司書補の研修の充実

## 2 その他

- (1) 国立国会図書館
- (2) 大学図書館
- (3) 公民館図書室等
- (4) 児童館
- (5) 放課後子ども教室、放課後児童クラブ等

## IV 学校等における取組

### 1 幼稚園 保育所等

- (1) 幼稚園、保育所等の役割
- (2) 幼稚園、保育所等における取組

### 2 小学校、中学校、高等学校等

- (1) 小学校、中学校、高等学校等の役割
- (2) 小学校、中学校、高等学校等における取組
  - ①小学校、中学校、高等学校等における読書指導
  - ②障害のある子どもの読書活動
- (3) 学校図書館
  - ①学校図書館の役割
  - ②学校図書館の取組
    - ア. 学校図書館資料の整備・充実
    - イ. 学校図書館施設の整備・充実
    - ウ. 学校図書館の情報化
- (4) 人的体制
  - ①司書教諭の配置
  - ②学校司書の配置
  - ③その他
- (5) 連携・協力

## V 子どもの読書への関心を高める取組

成長に伴い他の活動への関心が高まり、相対的に読書の関心度合いが低くなっている子どもも見られることから、引き続き読書への関心を高める取組を行うことも必要である。

特に高校生の時期の子どもの読書への関心を高めるためには、友人等の同世代の者とのつながりを生かし、子ども同士で本を紹介したり話合いや批評をしたりする活動が行われることが有効と考えられる。その際、ゲーム感覚で行う手法を取り入れることも有効である。

### ・読書会

数人で集まり、本の感想を話し合う活動である。その場で同じ本を読む、事前に読んでくる、一冊の本を順番に読む等、様々な方法がある。この取組により、本の新たな魅力に気本の新魅力に気付付き、より深い読書につなげることができる

### ・ペア読書

二人で読書を行うものであり、家族や他の学年、クラス等様々な単位で一冊の本を読み、感想や意見を交わす活動である。この取組により読む力に差がある場合も相手を意識し、本を共有することにつなげることができる。

### ・お話（ストーリーテリング）

語り手が昔話や創作された物語を全て覚えて自分の言葉で語り聞かせ、聞き手がそれを聞いて想像を膨らませる活動である。直接物語を聞くことで、語り手と聞き手が一体になって楽しむことができる。

### ・ブックトーク

相手に本への興味が湧くような工夫を凝らしながら、あるテーマに沿って関連付けて、複数の本を紹介すること。テーマから様々なジャンルの本に触れることができる。

### ・アニメシオン

読書へのアニメシオンとは、子どもたちの参加によりより行われる読書指導のことであり、読書の楽しさを伝え自主的に読む力を引き出すために行われる。ゲームや著者訪問等、様々な形がある。

### ・書評合戦（ビブリオバトル）

発表者が読んで面白いと思った本を一人5分程度で紹介し、その発表に関する意見交換を2～3分程度行う。全ての発表が終了した後に、どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で選ぶ活動である。ゲーム感覚で楽しみながら本に関心を持つことができる。

### ・図書委員、「子ども司書」、「読書コンシェルジュ」等の活動

子どもが図書館や読書活動について学び、お薦め薦め本を選定して紹介したり、同世代の子どもを対象とした読書を広める企画を実施したりする活動である。自ら読書に関する理解を深めるとともに、読書活動の推進役となり、同世代の子どもの読書のきっかけを作り出すものである。

### ・子ども同士の意見交換を通じて、一冊の本を「〇〇賞」として選ぶ取組

参加者が複数の同じ本を読み、評価の基準も含めて議論を行った上で、一冊のお薦め本を決める活動である。複数の本を読み込み、共通の本について自身の考えで話し合うことで、自分と異なる視点を知り、自身の幅を広げることにつながるものである。

## VI 民間団体の活動に対する支援

### 1 民間団体の役割

### 2 民間団体に対する支援

## Ⅶ 普及啓発活動

### 1 普及啓発活動の推進

- (1) 「子ども読書の日」を中心とした全国的な普及啓発の推進
- (2) 各種情報の収集・提ども

### 2 優れた取組の奨励

- (1) 優れた取組に対する表彰等
- (2) 優良な図書の普及